



安全データシート (SDS)

作成日 2009年12月11日  
改訂日 2022年05月24日

1. 化学品及び会社情報

化学品等の名称 デオファインT  
製品コード SDT-204  
供給者の会社名 竹中産業株式会社  
住所 東京都千代田区鍛冶町1丁目5-5  
担当部門 開発部  
電話番号 03-3256-2355  
ファックス番号 03-3254-8270  
緊急連絡電話番号 03-3256-2355  
受付日時 月曜日～金曜日（祝祭日除く）9:00～17:00  
推奨用途及び使用上の制限 消臭剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	爆発物	区分に該当しない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	区分に該当しない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高压ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	区分に該当しない
	自然発火性液体	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	区分に該当しない
	水反応可燃性化学品	区分に該当しない
	酸化性液体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	区分に該当しない
	金属腐食性化学品	区分に該当しない
健康に対する有害性	鈍性化爆発物	区分に該当しない
	急性毒性（経口）	区分に該当しない
	急性毒性（経皮）	区分4
	急性毒性（吸入：気体）	区分に該当しない
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分に該当しない
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	区分に該当しない
	皮膚腐食性／刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分2
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	生殖毒性・授乳影響	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	分類できない
環境に対する有害性	誤えん有害性	分類できない
	水生環境有害性 短期（急性）	区分3
	水生環境有害性 長期（慢性）	区分3
	オゾン層への有害性	分類できない

GHSラベル要素

絵表示（ピクトグラム）



注意喚起語  
危険有害性情報

警告  
皮膚に接触すると有害（H312）  
皮膚刺激（H315）  
強い眼刺激（319）  
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ（P317）  
水生生物に有害（H402）  
長期的影響により水生生物に有害のおそれ（P413）

注意書き  
安全対策

保護眼鏡/保護面/保護手袋/保護衣を着用すること（P280）  
取扱い後は手をよく洗うこと（P264）  
粉じん/ヒューム/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること（P261）

応急措置	汚染された作業衣は作業場から出さないこと (P272) 環境への放出を避けること (P273) 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹼で洗うこと (P302+P352) 気分が悪い時は、医師に連絡する (P312) 汚染された衣服を再使用する場合には洗濯すること (P363) 皮膚刺激が生じた場合、医師に診断/手当てを受ける (P332+P313) 汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること (P362) 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること (P305+P351+P338) 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること (P337+P313) 皮膚刺激または発疹が生じた場合、医師の診断/手当を受けること (P333+P313)
廃棄	内容物/容器を産業廃棄物として適切に廃棄すること (P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 化学名又は一般名		混合物 香料			
組成物質名	CAS登録番号	化管法指定 化学物質の種別	化審法官報公示 整理番号	安衛法官報公示 整理番号	濃度又は濃度範囲
酢酸ベンジル	140-11-4	第二種 (2-035)	3-1020	-	0.3%
ジフェニルエーテル	101-84-8	第一種 (1-204)	3-650	-	0.2%
ベンジルアルコール	100-51-6		3-1011	-	1~5%
シトロネロール	106-22-9		2-258	-	1~5%
テルピネオール	8000-41-7		3-2323	-	80~90%

4. 応急措置

吸入した場合  皮膚に付着した場合  眼に入った場合  飲み込んだ場合  急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状  応急措置をする者の保護に必要な注意事項 医師に対する特別な注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被災者を直ちに新鮮な場所に移し、頭を低くして横向きにねかせ、身体の保温に努める。</li> <li>・ 被災者が意識を失っている場合には、口中の異物を取り除く。</li> <li>・ 被災者が呼吸が止まった場合は、速やかに人工呼吸を行う。</li> <li>・ 応急措置を施した後、必要に応じて医師の診断を受ける。</li> <li>・ 石鹼で充分洗浄後、清浄な水で洗い流す。</li> <li>・ 必要に応じて医師の診断を受ける。</li> <li>・ 直ちに清浄な水で15分以上洗眼した後、速やかに眼科医の診断を受ける。</li> <li>・ コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り取り除いて洗浄する。</li> <li>・ 口をすすぎ、コップ1~2杯の水又は牛乳を飲ませて希釈する。</li> <li>・ 無理に吐かせてはいけない。</li> <li>・ 被災者に意識が無い場合には、口から何も与えてもいけないし、吐かせようとしてもいけない。</li> <li>・ 応急措置を施した後、必要に応じて医師の診断を受ける。</li> <li>・ 誤飲した場合、胃の粘膜を刺激し、嘔吐、胃痛、下痢等をおこすことがある。また、飲み込んだ本品が肺に吸入されると、肺組織の内出血、肺気腫、化学性肺炎を起こすことがある。</li> <li>・ 救護者は、必要に応じて適切な眼、皮膚の保護具を着用する。</li> <li>・ 対症的に治療すること。</li> </ul>
--	--

5. 火災時の措置

適切な消火剤 使ってはならない消火剤 火災時の特有の危険有害性 特有の消火方法  消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	水噴霧、乾燥砂、粉末消火剤が有効である。 特になし 現在のところ有用な情報なし。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消火剤を火元に放射、散布をして消火する。</li> <li>・ 消化作業の際は、風上から行き必ず保護具を着用する。</li> <li>・ 移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移動する。</li> <li>・ 火災発生場所の周囲に関係者以外の立ち入りを禁止する。</li> </ul> 消火作業の際には、状況に応じて適切な保護具を着用する。
---	---

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置  環境に対する注意事項 封じ込め及び浄化の方法及び機材  二次災害の防止策	作業の際は、吸入や皮膚に触れないよう、適切な保護具を着用し換気を良くして処理する。詳細については、第8項の「ばく露防止及び保護措置 保護具」を参照。 下水道、河川に流出し、2次災害・環境汚染を起こさないよう注意する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少量の場合には、乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて密閉できる金属容器などに回収して適切に処理する。</li> <li>・ 多量の場合は、盛り土で囲って流出を止めた後、安全な場所に導いて処理する。付近にある着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火用器材を準備する。</li> </ul>
--	---

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い  技術的対策  安全取扱い注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 局所排気装置の設置、設備の密閉化又は全体換気を適切に行う。</li> <li>・ ばく露防止のため、適切な保護具を着用して作業を行う。</li> <li>・ 火気厳禁。電気機器類、静電気、スパーク等による着火源を生じないようにする。</li> </ul>
-----------------------------------	--

保管	接触回避 衛生対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>蒸気の吸入、皮膚への接触を避ける。</li> <li>ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触を避ける。</li> <li>この製品を使用するときには、飲食又は喫煙をしないこと。</li> <li>製品取扱い後は必ず手を洗う。</li> <li>適切な換気のある乾燥した冷暗所（又は指定の場所）に密栓して保管する。</li> <li>消防法、労働安全衛生法の法令の定めるところに従う。</li> <li>ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触を避ける。</li> <li>消防法、労働安全衛生法の法令の定めるところに従う。</li> </ul>
	安全な保管条件	
	安全な容器包装材料	

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 許容濃度	ACGIH（2013年度版） <sup>2)</sup>	設定されていない。 酢酸ベンジル TLV - TWA 10ppm ジフェニルエーテル TLV - TWA 1ppm TLV - STEL 2ppm
設備対策 保護具	呼吸用保護具 手の保護具 眼、顔面の保護具 皮膚及び身体の保護具	取扱いの際には、設備の密閉化又は局所排気装置を使用する。 有機ガス用防毒マスク 保護手袋 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型） 保護服（長袖作業服等）

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态	物理状态 色 臭い	液体 無色～黄色 石鹼調の臭気を有する
融点・凝固点		データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲		データなし
可燃性		あり
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界		データなし
引火点		108℃以上（COC）
自然発火点		データなし
分解温度		データなし
pH		データなし
動粘性率		データなし
溶解度		水に不溶、油に可溶
n-オクタノール／水分配係数（log値）		データなし
蒸気圧		データなし
密度及び／又は相対密度		約0.94g/cm <sup>3</sup> （20℃）
相対ガス密度		データなし
粒子特性		データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 化学的安定性 危険有害反応可能性 避けるべき条件 混触危険物質 危険有害な分解生成物	通常条件下では安定で、反応性はない。 通常条件下では安定で、自己重合性はない。 現在のところ有用な情報なし。 特記すべき条件はない。 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触を避ける。 自己分解により、有害ガスを発生することはない。
---	--

11. 有害性情報

急性毒性（経口） 急性毒性（経皮） 急性毒性（吸入：気体） 急性毒性（吸入：蒸気） 急性毒性（吸入：粉じん、ミスト） 皮膚腐食性／刺激性 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 呼吸器感受性 皮膚感受性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 生殖毒性・授乳影響 特定標的臓器毒性（単回ばく露） 特定標的臓器毒性（反復ばく露） 誤えん有害性	区分に該当しない。（構成成分からの推定） 区分4（構成成分からの推定） 区分に該当しない。（構成成分からの推定） 区分に該当しない。（構成成分からの推定） 区分に該当しない。（構成成分からの推定） 区分2（構成成分からの推定） 区分2（構成成分からの推定） 分類できない。現在のところ有効な情報なし。 区分1（構成成分からの推定） 分類できない。現在のところ有効な情報なし。 分類できない。現在のところ有効な情報なし。 分類できない。現在のところ有効な情報なし。 分類できない。現在のところ有効な情報なし。 分類できない。現在のところ有効な情報なし。 分類できない。現在のところ有効な情報なし。 分類できない。現在のところ有効な情報なし。
---	--

12. 環境影響情報

生態毒性	水生環境有害性（短期/急性）	区分3（構成成分からの推定）
------	----------------	----------------

残留性・分解性 生態蓄積性 土壌中の移動性 オゾン層への有害性	水生環境有害性 (長期/慢性)	区分3 (構成成分からの推定) 現在のところ有効な情報なし。 現在のところ有効な情報なし。 現在のところ有効な情報なし。 分類できない
<b>1 3. 廃棄上の注意</b>		
残余廃棄物  汚染容器及び包装		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄においては、</li> <li>・ 関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。</li> <li>・ 海、河川、湖、その付近及び排水溝に投棄してはならない。内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処理する。</li> </ul>
<b>1 4. 輸送上の注意</b>		
国際規制  国内規制  特別な安全上の対策  緊急時対応措置指針	国連番号 品名 (国連輸送名) 国連分類 (輸送における危険有害性クラス) 副次危険 容器等級  海上規制情報 航空規制情報 陸上規制情報	非該当 なし 該当しない  該当しない 該当しない  船舶安全法等に定められている運搬方法に従う。 航空法等に定められている輸送方法に従う。 消防法、労働安全衛生法などに定められた運送方法に従う。 可燃物なので「火気厳禁」。 容器を転倒、落下等粗暴な取扱いをしない。 指針番号 171
<b>1 5. 適用法令</b>		
労働安全衛生法  消防法 廃棄物の処理及び清掃に関する法律		表示対象物 通知対象物 危険有害化学物質等 特定危険有害化学物質等 消防法 第4類 第三石油類 (非水溶性) 危険物等級Ⅲ 産業廃棄物規則
<b>1 6. その他の情報</b>		
引用文献、参考文献  <b>免責条項</b>	GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS) (JIS Z7253:2019) GHSに基づく化学品の分類方法 (JIS Z7252:2019) 事業者向けGHS分類ガイダンス(経済産業省) 1) 産業衛生学会誌 (2013年度版) 2) Threshold limit values for chemical substances and physical agents and biological exposure indices, ACGIH (2013) 3) 香料のGHS対応の手引き (改訂第2版) 日本香料工業会 4) 独立行政法人製品評価技術基盤機構 (nite) 「GHS関連情報」 5) 香料の表示指針 (2016年版) 日本香料工業会 6) IFRA-IOFI Labeling Manual 2013	当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしており、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではありません。製品の取り扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取り扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害、または費用に対する責任、直接・間接を問わず一切負いません。当該安全データシートは本製品にのみ使用するべきであり、本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことが有ります。